

平成 29 年度 事業計画書

公益財団法人千葉県文化振興財団

平成 29 年 度 事 業 計 画

I 趣 旨

公益財団法人千葉県文化振興財団は、文化芸術を普及振興し、県民の自主的文化活動を支援することにより、生きがいと潤いのある世界に開かれた文化県千葉の建設に寄与することを目的として、文化芸術の創造や振興、文化芸術活動の支援、文化芸術拠点施設の管理運営などの事業に取り組み、県内全域の文化振興の向上に努めてまいります。

また、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機とした文化プログラムの全国展開に伴い、大学や企業のほか、さまざまな分野で活動している団体や文化施設との連携を強めながら、新たな「ちば文化」を創造し、その機運の醸成に取り組んでまいります。

県立文化会館の指定管理者として、お客様が安全で安心してご利用いただける環境を整え、千葉県の文化振興の中心施設である「千葉県文化会館」、県東部地域の文化振興の拠点である「千葉県東総文化会館」、両館ともにホスピタリティの高い特色を生かした運営に取り組みます。

さらに、公益財団の特性を生かしながら営業力の強化を図り、安定した経営基盤の確立を目指すとともに、文化芸術の振興と公益の増進につながる重要な役割を果たしてまいります。

II 事業概要

上記の趣旨に基づき、本年度の事業を実施します。

事業の実施にあたっては、これまで以上に様々な団体との文化ネットワークを活用し、優れた文化芸術の鑑賞事業や県民が主役となる県民参加事業、そして子どもたちの文化芸術活動の充実が図れる事業など、多くの県民が文化芸術に触れ親しむことのできる事業に取り組みます。

特に千葉県文化会館では、開館 50 周年を迎えることから、これまで県民に親しまれてきた文化会館の建築当時の様子を振り返るとともに、多彩な記念事業を実施いたします。

1. 文化芸術の創造、振興及び鑑賞普及事業

(1) 創造・振興事業

これまで財団が構築してきた文化団体、実演芸術家、文化施設、市町村、企業、大学等との文化ネットワークを生かし、多くの県民が文化芸術に触れ親しむことができるよう取り組みながら、新たな「ちば文化の創造」に貢献する事業を実施します。

本年度は、千葉県文化会館開館 50 周年を記念して、日本建築学会賞や公共建築百選にも選ばれ、建築的価値の高い文化会館の施設紹介やその役割りの重要性について、多くの県民に知っていただくための「シンポジウム」を特別企画として開催します。また、財団が企画した公演を県内の文化施設に提案する文化の輪プロジェクトでは、東金市及び八千代市において「親子 de オペラ鑑賞デビュー」を実施し、親子でオペラを身近に楽しめる機会を提供します。

さらに、「地域まるごと発見フェスタ in 東総」では、県東部地域の魅力を紹介するために文化団体や大学など、さまざまな団体と連携して多彩なプログラムで展開します。

(2) 鑑賞・普及啓発事業

千葉県の文化芸術の発信拠点として、多くの県民が優れた文化芸術を鑑賞できる機会の充実に取り組むとともに、文化団体や企業等とも連携し県民のニーズに応える様々なジャンルの公演を実施します。また、県民が文化芸術活動をはじめのきっかけとなる公演や気軽に参加できるような普及啓発的な事業も実施していきます。

本年度は、これまで好評な国内外で活躍する一流のアーティストを迎えて実施する「プレミアム・クラシック・シリーズ」3 公演、新規の企画として、音楽と映像の融合をテーマとした「音楽と映像のコラボレーションコンサート」のほか、旭市出身のピアニスト「實川風ピアノリサイタル」では、地域の方々にその実力ある演奏を紹介します。

さらに、千葉県舞台芸術鑑賞支援プログラムとして、誰もが文化芸術に触れることができるよう、児童福祉施設や社会福祉施設の入所者、文化芸術を学んでいる学生などに公演を鑑賞する機会を提供します。

(3) 県民参加事業

文化の担い手である県民が主体となって文化芸術活動を活発に行うきっかけをつくり、文化芸術の裾野の拡大を図ります。また、文化活動を通じて地域社会への参加を促進し、地域のコミュニティ形成にも大きな役割を果たせるよう人材の養成に努めます。

ちば県民合唱団の「定期演奏会」では、千葉県文化会館開館 50 周年を祝して、初めてベートーヴェンの「第九」に挑戦するとともに、県東部地域の合唱団にも参加していただき、世代間や地域間の垣根を超えた交流を図ります。

「チャレンジド・ミュージカル」では、NPO 法人と連携して子どもから高齢者、障がい者も一緒になって楽しめる内容で実施します。

千葉県舞台芸術企画募集事業では、県民の文化活動を支援するため、舞台芸術企画を広く募集し、最も優れた企画を提案した団体に対して制作費の一部を助成するとともに、合同主催事業として実施します。

文化ボランティアの運営として、県民が文化芸術に関心を深め、自発的に文化活動に参加できるよう、「公演運営」「普及広報」「企画参加」といった活動のほか、養成講座や意見交換会を実施するなど、より充実した組織運営に取り組みます。

2. 文化芸術活動の支援及び人材の育成事業

(1) 支援・人材育成事業

幅広い文化芸術分野において若い才能を発掘し、その才能を伸ばすとともに、千葉県出身のアーティストが多くの県民に注目される舞台上で活躍できるよう支援を行い、千葉県の文化芸術の活性化に努めます。

また、県内外で活躍する実演芸術家として育成していくため、文化会館を活動と発信拠点の場として提供します。

「若い芽のαコンサート」では、県内出身または在住で、国内外の著名なコンクールで実績のある演奏家がプロのオーケストラとの共演により、将来へのステップアップにつなげます。また、「TOSO ダンスフェスティバル」では、若者に人気のダンスを取り上げ、地域のダンスチームに発表の場を提供するとともに、若者の交流を図ります。

さらに、千葉大学に職員を講師として派遣し、授業で文化芸術や公演制作に関する講義を行うほか、インターンシップ生を受け入れるなど、

学生が積極的に文化活動に携わる機会を設けることでアートマネジメント人材の養成にも取り組みます。

(2) 千葉県少年少女オーケストラ事業

世界トップレベルのユースオーケストラとして、多くの音楽関係者などから高い評価をいただいている千葉県少年少女オーケストラは、これまで以上に充実した運営を目指します。

本年度は、夏休み恒例の宮川彬良氏プロデュースによる「アキラさんの大発見コンサート」を千葉県文化会館と東金文化会館で開催するほか、株式会社千葉日報社が実施している「ちば音楽コンクール」の歴代入賞者から選ばれたピアニストたちとの演奏会で、2回目となる「夢の出会いコンサート」を開催します。1年間の活動の集大成となる「第22回定期演奏会」では、世界的に活躍している下野竜也氏を指揮者に迎えて開催します。

また、県内全域から団員を募集し、音楽を通じて青少年の健全な育成に努めながら演奏技術のさらなる向上を目指すほか、支援組織である

「千葉県少年少女オーケストラを支える会」の拡大を図り、オーケストラ活動の普及に取り組みます。

3. 文化芸術資源の調査研究及び活用事業

(1) 資源活用事業

伝統的な日本の風物詩の制作体験や県内の観光資源などを生かした事業を通じて、千葉県の魅力の再発見や地域の活性化につなげます。

いのはなカルチャーコレクションでは、千葉の歴史講座として「南総里見八犬伝」についてのわかりやすい講座を実施します。「伝統文化にチャレンジで」では、千葉県造園緑化協会と連携し、門松づくりのワークショップを実施します。また、県東部地域の文化団体等と連携して、「東総うまいもんまつり」を開催し、農産物や花卉などの特産品をPRするとともに、地域の活性化につなげます。

ギャラリー運営として、千葉県文化会館では、専門家の監修による千葉県にゆかりのある画家の作品や、千葉県芸術文化団体協議会と連携して生活文化作品を展示するほか、聖賢堂には体験講座における講師の作品や県内の伝統文化に関する調査資料を展示し広く県民に紹介します。

千葉県東総文化会館では、千葉県立美術館と連携し「世界の名画 複製

画展」の開催や地域の特性を生かした作品を展示するなど、アートが身近に感じられる親しみやすい空間を提供します。

(2) 伝統文化振興事業

長い歴史と伝統の中から生まれ、大切に守り伝えられてきた伝統文化を、貴重な財産として次世代に継承していくために、専門家や文化団体とのパイプを生かしながら、多くの県民が伝統文化に触れ、親しみ、特に次代を担う子どもたちが関心を持つことにより、伝統文化の継承・発展・発信につながる事業を実施します。

「創作狂言」では昨年度に続き、和泉流狂言師や千葉大学、NPO 法人と連携して、南総里見八犬伝を題材にしたシリーズ第2弾を実施します。

県内各地から子どもたちを募り実施する「千葉県こども歌舞伎アカデミー」では、舞踊家を講師として、礼儀作法や歌舞伎の所作・台詞など、総合的な稽古を行い、その成果を「こども歌舞伎公演」として本格的な舞台セットの中で発表します。

千葉県東総文化会館では、国指定重要無形文化財で2010年ユネスコ無形文化遺産にも登録された沖縄の歌舞劇「組踊」を実施し、普段観る機会が少ない優れた伝統芸能を鑑賞していただきます。

4. 文化芸術情報の収集及び発信事業

文化会館が文化振興の拠点としての機能を発揮し、より多くの方にご利用、またはご来場いただくために、効果的な広報・情報発信に取り組みます。多様な媒体を活用した広報として、ホームページや facebook、LINE などの SNS を利用して会館の取り組みや公演案内をリアルタイムで情報発信するほか、年間公演を掲載したイベントカレンダー、文化芸術の話題をピックアップした「財団 News」などによる情報提供も引き続き実施していきます。

新たな取り組みとして、千葉駅構内のデジタルサイネージによる千葉県文化会館の案内や、企業の協力を得て駅前通りのショーウィンドウに公演案内などを掲示します。

県内文化施設のイベント情報は、県内12の文化振興財団で構成する「ちば文化振興ネットワーク協議会」が合同で作成するチラシで情報提供の充実を図ります。また、千葉日報の「文化のかおり」への掲載など、

マスコミ各社と連携を強化し、公演情報を広く県民に紹介する取り組みも実施します。

5. 文化芸術振興のための国内外との交流事業

文化団体やアーティストが、県外や海外の方との交流機会を持つことで文化活動を通じて、千葉県文化のレベルアップにつなげるとともに、千葉県文化を国内外に広く発信します。

外国人も参加する落語愛好家による「落語国際大会 IN 千葉」、成田国際空港で行う「成田国際空港スカイリウムコンサート」を開催し、文化交流を深めます。

6. 文化芸術拠点施設の管理運営事業

(1) 安全な会館運営

文化会館は、日々、さまざまな催し物が開催され、不特定多数の県民が利用されることから、お客様の安全を第一に考え、誰もが安心して利用できるよう専門性の高い職員を配置した管理運営に努めます。

施設の危機管理対策として、消防法に定められた消防訓練を年2回実施するほか、職員全員が「防災カード」を常時携帯し、より正確で迅速な対応に努めます。万一の緊急時に備え、避難誘導體制やAEDの設置場所などについて主催者と共有を図り、急病者やけが人が発生した場合には、迅速に消防や医療機関と連携し対処します。

設備面においては、年間の施設維持管理作業計画を策定し、予防保全を第一とした管理に努めるとともに、老朽化の状況を把握し施設の安全性を高めます。簡易な修繕は迅速に実施し、規模の大きな故障などは早急に県と復旧策を協議し運営に支障のないよう取り組みます。

最近の社会情勢の中で、不審者・不審物の対策として警備員の巡回・監視の強化を図ります。また、千葉県文化会館では、企業の協力により、新たに施設内に監視カメラシステムを導入し、リアルタイムで施設の状況を把握することで安全な会館運営に努めます。

(2) 県民に愛され、親しまれる会館運営

県民の平等な利用の確保に努めながら、すべてのお客様に対しておもてなしの心、思いやりの心で接します。特に清潔で快適な空間をご利用いただけるよう施設環境を整備し、ホスピタリティの高い会館運営に努めます。お客様が施設を利用する際には、経験豊かで専門性の高い職員がイベントアドバイザーとして、利用に関するすべてをワンストップでサポートし、的確なアドバイスとアイデアを提供しながらステージ創りを協力し、お客様の満足度を高めます。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、本県においても、競技が開催され、外国人観光客などの増加が見込まれることから、多言語に対応できるタブレットやコミュニケーションボードを備えるなど、外国人向けのサービス向上にも取り組みます。

そのほか、小中学生の職場体験や校外学習を受け入れ、文化振興について理解を深める場として会館を提供し、多くの県民から愛され親しまれる会館運営を目指します。

(3) 特色ある会館運営

千葉県の文化振興に取り組む施設として、国内外の優れた文化芸術公演を誘致し、子どもから高齢者の方まで幅広い層のお客様で賑わう会館運営に取り組むほか、利用者や来場者などにアンケートを実施し、県民ニーズを把握した運営に努めるとともに、新たなお客様とリピーターの確保に取り組みます。

千葉県の文化振興の中心施設である千葉県文化会館は、千葉県公立文化施設協議会の会長館として、国内外の文化関連情報を県内の文化会館に提供し、文化会館相互の交流や連携を促進する役割を果たします。

また、多くの方から高い評価をいただいている千葉県少年少女オーケストラの活動拠点として、定期的に練習会場を提供し音楽を通じた人材養成に努めます。

県東部地域の文化振興の拠点である千葉県東総文化会館は、千葉県公立文化施設協議会Dブロックの理事館として、これまで構築してきた地域で活動している実演芸術家や文化団体、教育機関、近隣文化施設とのネットワークを広めながら、地域の文化振興を牽引していくとともに、引き続き、文化芸術の力で東日本大震災からの「心の復興」を支援します。

7. その他の事業

文化振興の拠点施設として、文化事業の企画から運営までの専門性を生かし、県民からの要望に応える文化イベントを開催します。

また、自動販売機などの充実を図るほか、文化事業や施設に関する物品を販売し、施設利用者のサービス向上に取り組みます。

8. 法人運営

(1) 人材の育成、組織の活性化

千葉県の文化振興を担う財団職員として、舞台技術の資格取得や文化芸術の知識を広げることはもとより、接遇マナー、緊急対応、国や千葉県の文化施策の理解を深めるなど、幅広い分野にわたって職員一人ひとりが資質の向上に取り組んでいくことが大切と考えています。

研修の実施にあたっては、様々な研修内容を体系的に分けて職員の資質・能力向上が図れる仕組みを構築します。

内部での実践形式によるOJTや外部研修を積極的に取り入れたOff-JTのほか、日常業務ではメンター制度を取り入れ、指導・相談役となる先輩職員が後輩職員をサポートすることで、互いに知識や技術、マネジメント能力を向上させ職員のスキルアップを図ります。

内部統制の体制として、横断的な委員会を設置しコンプライアンス順守はもとより、施設の安全や県民サービスの向上にも取り組みながら効率的な組織運営と組織の活性化を目指します。

(2) 経営の安定

県民の期待に応える文化芸術の振興と公益の増進につながる重要な役割を果たすため、安定した経営基盤の確立に努めます。

収入増加に向けたファンドレイジング活動として、千葉県文化会館開館50周年記念事業のために民間企業などに積極的な呼びかけを行います。また、これまで実施している公益財団法人の優遇税制措置を生かした寄付金の獲得、質の高い公演を企画し国や県のほか、民間助成団体などからの助成金の獲得にも取り組みます。

会館運営においても、施設の利用料金を分かりやすく提示した「パックプラン」を配布し、新たな利用を促進するとともに、定期的に利用されるお客様には最新の空き状況を提供し、利用件数と収入の増加につな

げます。

引き続き、事務の効率化による経費の削減や館内照明の LED 化を段階的に進めながら光熱水費の削減にも努め、経営の安定化に取り組みます。